

今年の春は乱気流を飛行するような気候でしたが、すみれ亭の庭には、豪華な花が妍を競うように咲き乱れ、嬉しいかぎりでした。

### 投函をわすれし手紙夏きたる

しろう

出すのをいつか忘れてしまつて、ポケットの中で毛羽立ちそうになつて居る手紙。忘れるということは、いささかためらわれる内容。

僕の手紙が 君の気持を重く させてら破りすててくれ 返事も 来ないときは 僕はきつと 二度ともう 手紙を書かない 僕を忘れてくれ

（『手紙』平岡精二 詩）

手紙の良さはゆつくりと逡巡し、そしてその楽しみをじっくりと味わうことができる点です。その点、メールは一瞬。

淡々とした措辞の中に、人生の酸いも甘いも噛み分けた、それでいて子供のように初々しい気持の漂う秀句となりました。

### 引鴨や寂しくなりし水の音

信貴

わが国でひと冬すごした鴨は、春先になるとサハリンやシベリアへ帰つて行く（引鴨）。しばらく水辺は騒がしくなり、再びまたもとの静けさに戻る。軽鴨（留鳥）や残り鴨（夏）がうつろに泳いでいる。水音に寂しさを象徴させて佳句となりました。

### 居残れる沼白鳥もわけやある

藤則

季節が来ても帰国できないのにはそれなりに訳があるのです。先ず怪我や病氣（肥満を含む）。内縁関係もあるかもしれない。前掲の句同様、急に寂しくなった水面をうつうつとして泳ぐ白鳥に自己投影できたのが一句を成しえた要因です。「居残れり」は「る」とします。

### 日焼止入れととのへり旅靴

マサ

いざ旅行となると仮に一泊であつても女性の方が荷物が多い。あれもこれもという仕儀になり勝ちですが、最後に「日焼止」を入れてめでたく完了です。

何気ないものの携行が旅の余裕と楽しみを倍増することでしょう。

### 母の日や乱れてきたる字の哀し

智昭

なかなかの佳句です。ご母堂へのやさしさに溢れる点が共感を呼び、互選でも得点を重ねました。惜しむらくは一点、季語と「付きすぎ」になつたことです。例えば次のようにしてはいかがでしょう。

「著莪の花乱れてきたる字の哀し」 「・・・この頃乱れ母の文字」

流行の日傘求めて我新た

慶子

十六本骨のヨーロッパ調フリル付、紫外線カット。違いました？

夏近し東雲早くなりけり

晶子

雲の動きひとつで、春から夏への季節の移り変わりを察します。

蜘蛛の巣に行く手はばまれにらめっこ

清龍

雨露が残り朝日に輝くクモの巣。手ではらうことなく眺める清龍氏。

新緑の茶畑によつきり仁王さま

靖

仁王さまは二王。阿形と吡形で仏を守る。茶畑の仁王は動くのか？

小雨降る今日は穀雨の恵みかな

弓人

穀雨は新暦四月頃。百穀を潤す有難い雨。昔ながらの暦に感謝の心。

立夏すぎ音読の声に耳澄まし

冬草

英語を習い始めたお孫さん？あつという間に上達します。

友と観る神代桜年思ふ

河童

日本武尊が東夷征定の折お手植えされた。爾来二千年も見事に。

あをによし薬師寺西塔さみだる

雅子

当時の平均寿命は、一説には二十才位だという。神仏に祈るのみ。

柏餅何はともあれ元氣にと

満紀子

粽とともに端午の節句に供える。男の子は昔も今も元氣が身上。

黄緑のクレヨンに似て銀杏立つ

豊嗣

東京の街並には明るい緑が似合う。街全体がにぎやかで、騒々しいからでしょうか。銀杏の樹は先の尖ったクレヨンに似ていると絵心のある氏。何よりクレヨンという懐かしい言葉のもたらす安定した効果が良いと思います。クレパスならどうかですって？

中岳の火口覗きし揚雲雀

西風

巢や地上から囀りとともに垂直に舞い上るのが「揚雲雀」。

(阿蘇山の)火口を覗いて来るといふ仕事をちやんとこなした。うらうらと天に雲雀は啼きのぼり

雪斑らなる山に雲みず

斉藤 茂吉

母の墓前に草餅そなえまた来るね

善啓

ご母堂の好物であったか、草餅を墓前にお供えして名残を惜しむ。「また来るね」の話し言葉に作者の限らない優しさが感じられ、同時に俳句としても成功しました。字余りですが上五に助詞を入れます。うどん供へて母よわたしもいただきます

山頭火

### 神宿る千の齡の花明かり

黄雀

「桜の木の下には屍体がうまっている！」さくらの美しい理由をこのように喝破したのは梶井基次郎でした。

例えば山梨県の日蓮宗実相寺の神代桜は樹齡二千年を超えるといわれています。怖いような花明かりでしょう。「神宿る」に納得。

### 鬼ごっこ寝っころがりて風薫る

和代

「鬼ごっこ」などという懐かしい遊びは、当節どこへ行ってしまったのでしょうか。隠れる場所にも凝りすぎ、ついに探して貰えず、半ベソをかいて戻った夕焼けの道。

この里に手まりつきつつ子供らと

遊ぶ春日は暮れずともよし

良寛

ころがったのは例えばれんげ草の原っぱ。耳を澄ますと甘い蜜を含んだ風が通り過ぎる。蜂だらうか、小さな羽音のホバーリング。

優れた五七五からは、限らない時間の、記憶の連鎖が紡ぎ出されるという好例、秀逸です。

### 「お知らせ」

次回（来月）から兼題・「鳥兜集」（月当番幹事さんの出題及び選句）が始まります。六月は雅子さんの選でお題は「紫陽花」。新企画です。倦鳥選に飽き足りない方、新しい舞台で思いつきり暴れて下さい。実験作も大歓迎です。